# EMaT

# 工学系数学統一試験

**Engineering Mathematics Test** 

# 2012年12月8日(土)

- 4分野受験午後1時30分~午後4時10分
  - 3分野受験午後1時30分~午後3時30分
  - 2分野受験午後1時30分~午後2時50分
  - 1分野受験午後1時30分~午後2時10分
- \* 受験分野は、 各大学の指示に従ってください。

### 受験上の注意

- (1) 机の右上に学生証を提示すること.
- (2) 試験開始の合図があるまで問題冊子を開かないこと.
- (3) 開始の合図の後、表紙裏の解答上の注意を読むこと、
- (4) 問題冊子の印刷不鮮明,ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること.
- (5) マークには HB または B の鉛筆 (またはシャープペンシル) を使用すること.
- (6) 解答用紙を汚損したときは手を挙げて監督者に知らせること.
- (7) 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと.
- (8) 試験開始 40 分後から退室を認める.
- (9) 問題冊子は持ち帰ること.
- (10) 気分が悪くなった場合は手を挙げて監督者に知らせること.
- (11) その他、監督者の指示に従うこと.

## 解答上の注意

(1) 解答として最も適切なものを指定された解答群から選んでその記号を解答用紙にマークすること。ただし、解答群の中にふさわしいものが見つからない場合には ② をマークすること。例えば、 23 と表示してある問いに対して解答記号 ② を選ぶ場合は、次のようにマークすること。

23 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 a b d e f g h i

- (2) 破線で囲まれた番号は、前に現れた番号であることを表す. したがって、例えば **23** には **23** と同じ解答が入る.
- (3) 解答が数式の場合、 **23** は (**23**) という意味である. したがって、例えば **23** の解答が -x-1 の場合、 $x^2-$  **23** は  $x^2-$  (-x-1) を意味する.
- (4) ℝは実数全体の集合とする.
- (5)  $\log x$  は x の自然対数とする.

# 目次

第1分野	微分積分	• • • • • •	3
第2分野	線形代数		11
第3分野	常微分方程式		21
第4分野	確率 • 統計		31

# 第1分野 微分積分

[問1~問6:解答番号 □ へ □ □

(注意)  $\sin^{-1} x$ ,  $\cos^{-1} x$ ,  $\tan^{-1} x$  は、それぞれ  $\sin x$ ,  $\cos x$ ,  $\tan x$  の逆関数を表し、 $\arcsin x$ ,  $\arccos x$ ,  $\arctan x$  と書き表されることもある. 各逆関数がとる値の範囲(値域)は,  $-\frac{\pi}{2} \le \sin^{-1} x \le \frac{\pi}{2}$ ,  $0 \le \cos^{-1} x \le \pi$ ,  $-\frac{\pi}{2} < \tan^{-1} x < \frac{\pi}{2}$  とする.

- 問 1 (1)  $\lim_{x\to\infty} \left(x-\sqrt{x^2-1}\right) = \boxed{1}$  である.
  - (2)  $\lim_{x \to 0} \frac{\sin 4x}{x + \sin x} = \boxed{2}$  である.
    - 1・2の解答群

    - ①  $\frac{1}{4}$  ②  $\frac{1}{2}$  ③ 1 ④ 2 ⑤ 4 ⑥  $\infty$ ⑦  $-\frac{1}{4}$  ⑧  $-\frac{1}{2}$  ⑨ -1 ② -2 ⑥ -4 ⓒ  $-\infty$
  - (3) 自然対数の底 e は、n を自然数とする数列  $\left\{\left(1+\frac{1}{n}\right)^n\right\}$  の極限として導かれ 3. tants,  $\lim_{n\to\infty} \left(1+\frac{1}{n}\right)^n = e$  tants tants tants

$$\lim_{n\to\infty} \left(1 + \frac{2}{n}\right)^n = \boxed{3}$$

である.

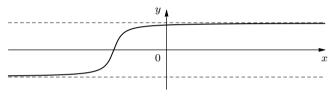
#### 間2 実数全体で定義された5個の関数

$$f_1(x) = \frac{ax+b}{x^2+1}$$
,  $f_2(x) = \log(ax^2+b)$ ,  $f_3(x) = e^{-ax^2+bx}$ 

$$f_4(x) = \tan^{-1}(ax+b)$$
,  $f_5(x) = e^{-x}\sin(ax^2+b)$ 

を考える。 ただし、 a,b は正の定数とする.

- (1) 正数 a, b の値に関係なくすべての x について正の値をとる関数の組は  $\boxed{4}$ .
- (2) 有界な関数の組は 5. (注意: 関数 g(x) が有界であるとは、適当に正数 M を選べばすべての x に ついて |g(x)| < M となることである.)
- (3) 関数のグラフの概形が、十分広い区間で下図のようになりえる関数の組は  $\boxed{6}$ .



(破線 --- はグラフの漸近線を表す)

#### 4 ~ 6 の解答群

- ⑥ 存在しない
- ①  $\{f_1\}$  ②  $\{f_2\}$  ③  $\{f_3\}$  ④  $\{f_4\}$  ⑤  $\{f_5\}$

- (a)  $\{f_2, f_3\}$  (b)  $\{f_2, f_4\}$  (c)  $\{f_3, f_4\}$  (d)  $\{f_4, f_5\}$

**問3** 関数  $f(x) = \sqrt{1+x+x^2}$  を x = 0 の近くで 2 次多項式  $p(x) = 1 + c_1 x + c_2 x^2$  に よって近似する.

$$f'(x) = \boxed{7}, \qquad f''(x) = \boxed{8}$$

であるからマクローリン展開 (x=0を中心とするテイラー展開)を利用すると  $c_1 = \boxed{9}, c_2 = \boxed{10}$  となる.

- 7 ・ 8 の解答群

- - 9 ・ 10 の解答群

**問4** a を 0 でない定数とするとき、不定積分  $I = \int e^{ax} \sin x \, dx$  を計算する.

$$I = \boxed{11} - \frac{1}{a} \int e^{ax} \cos x \, dx$$
$$= \boxed{11} + \boxed{12} - \frac{1}{a^2} I$$

より

$$I = \boxed{13}$$
 (積分定数は省略)

となる.

- ①  $e^{ax} \sin x$  ①  $ae^{ax} \sin x$  ②  $\frac{1}{a}e^{ax} \sin x$  ③  $\frac{1}{a^2}e^{ax} \sin x$
- (4)  $e^{ax}\cos x$  (5)  $ae^{ax}\cos x$  (6)  $\frac{1}{a}e^{ax}\cos x$  (7)  $\frac{1}{a^2}e^{ax}\cos x$
- ©  $-e^{ax}\cos x$  @  $-ae^{ax}\cos x$  @  $-\frac{1}{a}e^{ax}\cos x$  f  $-\frac{1}{a^2}e^{ax}\cos x$

- ①  $\frac{e^{ax}}{a^2+1}(a\cos x + \sin x)$  ①  $\frac{e^{ax}}{a^2+1}(a\cos x \sin x)$
- ①  $\frac{e^{ax}}{a^2 + 1}(a\sin x + \cos x)$  ③  $\frac{e^{ax}}{a^2 + 1}(a\sin x \cos x)$  ④  $\frac{e^{ax}}{a^2 + 1}(a\sin x + \sin x)$  ⑤  $\frac{e^{ax}}{a^2 + 1}(a\cos x \cos x)$
- 6  $\frac{ae^{ax}}{a^2+1}(a\cos x + \sin x)$  7  $\frac{ae^{ax}}{a^2+1}(a\cos x \sin x)$
- (8)  $\frac{ae^{ax}}{a^2+1}(a\sin x + \cos x)$  (9)  $\frac{ae^{ax}}{a^2+1}(a\sin x \cos x)$

問 $\mathbf{5}$   $-\infty < x < \infty$  で微分可能な関数 f(x) に対して u(x,y) を

$$u(x,y) = \int_{x-2y}^{x+2y} f(t) dt$$

と定義する. これに対して  $F(x) = \int_0^x f(t) dt$  を考えると

$$u(x,y) = \boxed{14}$$

が成り立つ. これより u(x,y) は式 15 をみたすことがわかる.

- ① F(x+2y) + F(x-2y) ① F(x+2y) F(x-2y)
- ② F(x+2y) + F(x-2y) F(x) F(2y)
- (3) F(x+2y) F(x-2y) F(x) + F(2y)

**問**6 xy 平面上の集合 D が

$$D = \{ (x, y) \mid 0 \le x \le 1, x^3 \le y \le 1 \}$$

で与えられているとき, 重積分

$$I = \iint_D x^2 \sqrt{1 + 3y^2} \, dx dy$$

の値を求める。集合 D は

$$D = \left\{ (x, y) \mid 0 \le y \le 1, \ \boxed{\mathbf{16}} \le x \le \boxed{\mathbf{17}} \right\}$$

と表されるので,

$$I = \int_0^1 \left\{ \sqrt{1 + 3y^2} \left( \int_{16}^{17} x^2 \, dx \right) \right\} dy = \int_0^1 18 \, dy = 19$$

となる.

16 ・ 17 の解答群

- $0 0 1 2 y^{\frac{1}{3}}$
- $\bigcirc$  y

18 の解答群

- ①  $\frac{1}{3}y^{\frac{1}{3}}\sqrt{1+3y^2}$  ①  $\frac{1}{2}y^{\frac{1}{3}}\sqrt{1+3y^2}$  ②  $y^{\frac{1}{3}}\sqrt{1+3y^2}$

- 6  $\frac{1}{3}y\sqrt{1+3y^2}$  7  $\frac{1}{2}y\sqrt{1+3y^2}$  8  $y\sqrt{1+3y^2}$

# 第2分野 線形代数

[ 問 1 ~ 問 5 : 解答番号 **[20]** ~ **[36]**]

**問**  $\mathbf{1}$  3次元実ベクトル空間  $\mathbb{R}^3$  の 3 つのベクトル

$$oldsymbol{v}_1 = egin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}, \quad oldsymbol{v}_2 = egin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix}, \quad oldsymbol{v}_3 = egin{pmatrix} 2 \\ 3 \\ 1 \end{pmatrix}$$

を考える.

(1)  $m{v}_1, m{v}_2, m{v}_3$  を各列とする 3 次正方行列  $A = egin{pmatrix} 1 & 0 & 2 \ 2 & 1 & 3 \ 3 & 2 & 1 \end{pmatrix}$  の行列式 |A| の値は

[20] である. これを用いると, 4次正方行列

$$B = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 & 2 \\ 1 & 0 & 2 & 1 \\ 2 & 1 & 3 & -2 \\ 3 & 2 & 1 & -1 \end{pmatrix}$$

の行列式 |B| の値は 21 であることがわかる.

- 20 ・ 21 の解答群
- 0 0

(2)  $v_1, v_2, v_3$  に対して,

$$G \mathbf{v}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \qquad G \mathbf{v}_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \qquad G \mathbf{v}_3 = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

をみたす行列 G の (2,3) 成分 ((2,3) 要素ともいう) は、 **22** である.

- 0 0
- ① 1 ② 2 ③ 3 ④  $\frac{1}{2}$  ⑤  $\frac{3}{2}$  ⑥  $\frac{1}{3}$  ⑦  $\frac{2}{3}$  ⑧  $\frac{4}{3}$
- $9 1 @ 2 @ 3 @ \frac{1}{2} @ \frac{3}{2} @ \frac{1}{3} @ \frac{2}{3} @ \frac{4}{3}$

**問2** 空間内の 3点 A(1,2,4), B(1,-1,1), C(a,1,-2) と原点 O が同一平面上に存在する ように定数 a を定める。これら 4 つの点が同一平面上に存在するための必要十分条件 は、3つのベクトル

$$\overrightarrow{OA} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 4 \end{pmatrix}, \quad \overrightarrow{OB} = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad \overrightarrow{OC} = \begin{pmatrix} a \\ 1 \\ -2 \end{pmatrix}$$

が 23 ことである. これから, a = 24 が求まる.

23 の解答群

- ① 1次独立(線形独立)である ① 1次従属(線形従属)である

- ② 直交する ③ 直交しない

- 0 0
- ① 1 ② 2 ③  $\frac{1}{2}$  ④  $\frac{3}{2}$  ⑤  $\frac{1}{3}$  ⑥  $\frac{2}{3}$  ⑦  $\frac{4}{3}$

#### 問3 連立1次方程式

(\*) 
$$\begin{cases} x - y + 2z = -1 \\ 2x + y + 2z = 3 \\ x + 5y + az = b \end{cases}$$

について考える. ただし a, b は定数とする.

(1) 方程式(\*)に対応して同じ係数をもつ連立1次方程式

$$\begin{cases} x - y + 2z = 0 \\ 2x + y + 2z = 0 \\ x + 5y + az = 0 \end{cases}$$

を考えたとき、この方程式の解が x = y = z = 0 のただ 1 つであるのは  $a \neq \lceil 25 \rceil$  のときである.

- (2)  $a = \begin{bmatrix} 25 \end{bmatrix}$  のとき、方程式の係数行列  $\begin{pmatrix} 1 & -1 & 2 \\ 2 & 1 & 2 \\ 1 & 5 & a \end{pmatrix}$  の階数 (ランク) は  $\begin{bmatrix} 26 \end{bmatrix}$  である。
- (3) a = 25 のとき、最初の方程式 (\*) が解をもつのは b = 27 のときである。このとき、 (\*) は無数の解をもち、 y = 2t (t は任意の実数) とおけば

$$x = \begin{bmatrix} 28 \end{bmatrix}, \quad z = \begin{bmatrix} 29 \end{bmatrix}$$

と表せる.

#### - 25 ~ 27 の解答群

- 0 0

28 ・ 29 の解答群

- ① -2t+3 ① 2t-3 ②  $2t-\frac{1}{3}$  ③  $2t+\frac{1}{3}$
- (4)  $3t \frac{5}{2}$  (5)  $3t + \frac{5}{2}$  (6) -4t 4 (7) -4t + 4

- (8) 5t-2 (9) 5t+2 (a)  $5t-\frac{2}{3}$  (b)  $5t+\frac{2}{3}$
- ©  $5t \frac{3}{2}$  @  $5t + \frac{5}{2}$

#### 間4 連立1次方程式

$$(*) \qquad A\,\boldsymbol{x} = \boldsymbol{a} \qquad \text{ただし,} \quad A = \begin{pmatrix} 1 & -1 & 2 \\ -1 & 0 & -1 \\ -1 & 4 & -3 \end{pmatrix}, \quad \boldsymbol{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix}, \quad \boldsymbol{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -2 \end{pmatrix}$$

を解く. ここで行列 A が

下三角行列 
$$B = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ -1 & 1 & 0 \\ -1 & -3 & 1 \end{pmatrix}$$
 と上三角行列  $C = \begin{pmatrix} 1 & -1 & 2 \\ 0 & -1 & 1 \\ 0 & 0 & 2 \end{pmatrix}$ 

によってA = BCと表されることを利用する.

方程式 (\*) は、 $\mathbf{y} = C\mathbf{x}$  とおくと、 $B\mathbf{y} = \mathbf{a}$  となる。 $\mathbf{y} = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ y_3 \end{pmatrix}$  とおいて書き直すと

$$\begin{cases} y_1 & = 1 \\ -y_1 + y_2 & = 0 \\ -y_1 - 3y_2 + y_3 & = -2 \end{cases}$$

であるから、上から順に解いて、 $y_1=1, y_2=$  30  $y_3=$  31 を得る。したがって方程式 (\*) は

$$Cx = \begin{pmatrix} 1 \\ \boxed{30} \\ \boxed{31} \end{pmatrix}$$

に帰着される。x について同様に解くと、 $x = \boxed{32}$  が求まる。

- 30 ・ 31 の解答群
- 0 0
- ① 1 ② 2 ③ 3 4 4 ⑤ 6 ⑥ 8 ⑦ 9 ⑧ 10

$$\bigcirc \quad \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$$

$$\bigcirc \begin{array}{c} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} \qquad \bigcirc \begin{array}{c} \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix} \qquad \bigcirc \begin{array}{c} \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} \qquad \bigcirc \begin{array}{c} \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix} \\ \end{pmatrix}$$

$$\begin{pmatrix}
-1 \\
1 \\
0
\end{pmatrix}$$

$$\begin{pmatrix}
0 \\
-1 \\
1
\end{pmatrix}$$

$$\begin{array}{ccc}
\begin{pmatrix}
0 \\
-1 \\
-1
\end{pmatrix}$$

**問**  $\mathbf{5}$  3次元実ベクトル空間  $\mathbb{R}^3$  の 2 つのベクトル

$$m{u} = \begin{pmatrix} -1 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}, \, m{v} = \begin{pmatrix} 1 \\ a \\ 3 \end{pmatrix} \quad (a$$
は定数)

は、 $a = \boxed{33}$  のとき直交する. このとき、3 次の正方行列

$$A = \boldsymbol{u}^t \boldsymbol{u} + \boldsymbol{v}^t \boldsymbol{v}$$

を考える。ただし  ${}^t u$ ,  ${}^t v$  はそれぞれ u, v の転置を表す。例えば,  ${}^t u = (-1,\,2,\,1)$  である。

$$(\boldsymbol{u}^t \boldsymbol{u}) \, \boldsymbol{u} = \begin{bmatrix} \mathbf{34} \end{bmatrix} \boldsymbol{u}, \qquad (\boldsymbol{v}^t \boldsymbol{v}) \, \boldsymbol{u} = \begin{bmatrix} \mathbf{35} \end{bmatrix} \boldsymbol{u}$$

が成り立つから、u は A の固有値 36 に対応する固有ベクトルである.

33 ~ 36 の解答群

- (i) 0

# 第3分野 常微分方程式

[ 問 1 ~ 問 5 : 解答番号 [37] ~ [54]]

(注意) 各問における y は x の関数であり, y', y'' は y の導関数  $\frac{dy}{dx}$ ,  $\frac{d^2y}{dx^2}$  を表す. また, 特殊解は特解ともいう.

#### 問 1 微分方程式

$$(*) y' + y = 10\sin 2x$$

を解く.

(1) 対応する同次方程式

$$y' + y = 0$$

の一般解は

$$y(x) = \boxed{37}$$

である.

#### 37 の解答群

- $\bigcirc$   $Ce^x$
- (1)  $e^x + C$
- $\bigcirc -e^x + C$

- $\odot$   $Ce^{-x}$
- $(5) -e^{-x} + C$

- $\bigcirc$   $C \sin x$
- $\bigcirc$   $\sin x + C$
- $(8) -\sin x + C$

- $\bigcirc$   $C\cos x$
- (a)  $\cos x + C$
- (b)  $-\cos x + C$

(C は任意定数)

(2) 微分方程式 (\*) の特殊解を

$$y_n(x) = a\cos 2x + b\sin 2x$$

とおくと,

$$a = \begin{bmatrix} 38 \end{bmatrix}, b = \begin{bmatrix} 39 \end{bmatrix}$$

である.

38 . 39 の解答群

- (0) 0
- (1) 1
- (2) 2
- (3) 3
- (4) 4
- (5)5

- (6) -1
- (7) -2
- (8) -3
- 9 -4
- $\bigcirc$  -5

(3) (1), (2) より, 微分方程式(\*)の一般解は

$$y(x) = \boxed{\mathbf{40}}$$

である.

**40** の解答群

- (a)  $C \sin x + 2 \cos 2x 4 \sin 2x$
- (2)  $C \sin x 4 \cos 2x + 2 \sin 2x$
- (4)  $Ce^x + 2\cos 2x 4\sin 2x$
- (a)  $Ce^x 4\cos 2x + 2\sin 2x$
- (8)  $\sin x + 2\cos 2x 4\sin 2x$
- (a)  $\sin x 4\cos 2x + 2\sin 2x$
- (c)  $e^x + 2\cos 2x 4\sin 2x$
- (e)  $e^x 4\cos 2x + 2\sin 2x$
- (C は任意定数)

(1)  $C\cos x + 2\cos 2x - 4\sin 2x$ 

- $3 C\cos x 4\cos 2x + 2\sin 2x$
- (5)  $Ce^{-x} + 2\cos 2x 4\sin 2x$
- (7)  $Ce^{-x} 4\cos 2x + 2\sin 2x$
- (9)  $\cos x + 2\cos 2x 4\sin 2x$
- (b)  $\cos x 4\cos 2x + 2\sin 2x$
- (a)  $e^{-x} + 2\cos 2x 4\sin 2x$
- (f)  $e^{-x} 4\cos 2x + 2\sin 2x$

#### 間 2 微分方程式

$$(*) y' = \frac{xy - y^2}{x^2}$$

を考える. このとき,

$$u(x) = \frac{y(x)}{x}$$

とおくと  $y' = \boxed{41}$  となるから、u(x) に関する微分方程式

$$(**) u' = \boxed{\mathbf{42}}$$

が得られる。この方程式(\*\*)の一般解を求めると

$$u(x) = \boxed{\mathbf{43}}$$

である. したがって、(\*) の一般解は y(x) = x 43 となる. さらに、方程式 (\*) の 解で初期条件 y(1) = 1 をみたすものは

$$y(x) = \boxed{44}$$

である。

#### 41 の解答群

- $\bigcirc u'$   $\bigcirc u'$   $\bigcirc u + u'$   $\bigcirc u u'$   $\bigcirc u xu'$   $\bigcirc u xu'$

- (8) -u u' (9) -u + u' (a) -u xu' (b) -u + xu'

#### | 42 | の解答群

- ① u ① -u ②  $u^2$  ③  $-u^2$  ④  $u-u^2$

① 
$$\frac{1}{\log|x| + C}$$
 ①  $\frac{C}{\log|x| - 1}$  ②  $\frac{1}{\log|x| - 1} + C$  ③  $\frac{1}{x + C}$  ④  $\frac{C}{x}$  ⑤  $\frac{1}{x} + C$ 

$$\bigcirc \frac{C}{x}$$

(5) 
$$\frac{1}{x} + C$$

(6) 
$$\frac{1}{x^2 + C}$$
 (7)  $\frac{C}{x^2}$  (8)  $\frac{1}{x^2} + C$ 

$$\bigcirc \frac{C}{x^2}$$

$$\bigcirc$$
  $Ce^x$ 

$$\bigcirc$$
  $Ce^{-x}$ 

$$\bigcirc e^{-x} + C$$

(C は任意定数)

① 
$$\frac{-x}{\log|x|-1}$$
 ①  $\frac{x}{\log|x|+1}$  ②  $\frac{x}{\log|x|-1}+2$  ③  $\frac{2x}{x+1}$  ④  $\frac{2x}{x^2+1}$  ⑤  $\frac{1}{x}$ 

$$3 \frac{2x}{x+1}$$

$$\frac{2x}{x^2+1}$$

$$\bigcirc \frac{1}{r}$$

⑥ 
$$xe^{x-1}$$

$$(7) xe^{-x+1}$$

$$(7) xe^{-x+1}$$
  $(8) xe^x + (1-e)x$ 

$$9 xe^{-x} + (1 - e^{-1})x$$

#### 問3 非線形微分方程式

$$(*) \qquad y' = y - 2y^2$$

を考える.  $z(x) = \frac{1}{y(x)}$  とおくと、方程式 (\*) は z に関する線形微分方程式

$$(**)$$
  $z' = \boxed{\mathbf{45}}$ 

に書き直せる. 方程式 (\*\*) の解で初期条件  $z(0) = z_0$  ( $z_0 > 0$ ) をみたすものは

$$z(x) = \boxed{\mathbf{46}}$$

と表せる. したがって  $y = \frac{1}{z}$  より,  $\lim_{x \to \infty} y(x) = \boxed{47}$  となる.

#### 45 の解答群

- ① -z-2 ① -z-1 ② -z ③ -z+1

- (4) -z+2 (5) -2z-2 (6) -2z-1 (7) -2z

- (8) -2z + 1 (9) -2z + 2

#### 46 の解答群

- (1)  $2 + (z_0 2)e^{-x}$
- ②  $-2 + (z_0 + 2)e^{-2x}$  ③  $2 + (z_0 2)e^{-2x}$
- $(5) 1 + (z_0 1)e^{-x}$
- $(7) \quad 1 + (z_0 1)e^{-2x}$

 $8 z_0 e^{-x}$ 

(9)  $z_0 e^{-2x}$ 

- 0 0

- ①  $\frac{1}{2}$  ② 1 ③  $\frac{3}{2}$  ④ 2
  ⑤  $-\frac{1}{2}$  ⑥ -1 ⑦  $-\frac{3}{2}$  ⑧ -2

#### 間 4 微分方程式

$$y'' + 2ky' + 9y = 0$$
 (k は定数)

について考える.

(1) 一般解は,

$$k=1$$
 のとぎ  $y=$  48

$$k=3$$
 のとき  $y=\boxed{\mathbf{49}}$ 

$$k=5$$
 のとぎ  $y=\boxed{\mathbf{50}}$ 

である。

(2) y' が常に負となる特殊解 y(x) が存在するための必要十分条件は、51 である.

#### 48 ~ 50 の解答群

- ①  $Ae^{-x} + Be^{-9x}$  ①  $Ae^{x} + Be^{9x}$  ②  $Ae^{-3x} + Be^{3x}$
- (3)  $(A + Bx)e^{-3x}$  (4)  $(A + Bx)e^{3x}$
- (5)  $(A + Bx)e^{-9x}$  (6)  $(A + Bx)e^{9x}$

- (7)  $e^{-x}(A\cos 8x + B\sin 8x)$  (8)  $e^{-x}(A\cos 2\sqrt{2}x + B\sin 2\sqrt{2}x)$
- (9)  $e^x(A\cos 8x + B\sin 8x)$  (a)  $e^x(A\cos 2\sqrt{2}x + B\sin 2\sqrt{2}x)$
- (A, B は任意定数)

- (i) k < 0
- $\widehat{1} \quad k \ge 0$
- (2) k = 0
- (3) |k| < 1 (4) |k| = 1 (5)  $|k| \ge 1$

- (6) |k| < 3
- $\bigcirc$  |k| = 3
- (8)  $|k| \ge 3$

- (9) |k| < 5
- (a) |k| = 5

#### 問 5 微分方程式

$$(*) y'' + 4y = e^{2x}$$

の解で初期条件

$$(**) y(0) = \frac{1}{2}, y'(0) = \frac{1}{2}$$

をみたす y(x) を求める.

(1) 対応する同次方程式 y'' + 4y = 0 の一般解は y(x) = 52 である.

#### 52 の解答群

- $(1) \quad A\cos 4x + B\sin 4x$
- (3)  $Ae^{4x} + Be^{-4x}$
- $(5) Ae^{4x} + Bxe^{4x}$
- (7)  $Ae^{-4x} + Bxe^{-4x}$

(A, B は任意定数)

(2) 関数  $y_p(x) = ae^{2x} (a \text{ は定数}) \text{ が } (*)$  の特殊解になるのは, $a = \boxed{53}$  のときで ある.

- $\bigcirc 0 \quad \bigcirc 1 \quad \frac{1}{16} \quad \bigcirc \quad \frac{1}{8} \quad \bigcirc \quad \frac{1}{6} \quad \bigcirc \quad \frac{1}{5} \quad \bigcirc \quad \frac{1}{4} \quad \bigcirc \quad \frac{1}{3} \quad \bigcirc \quad \frac{1}{2}$

(3) 以上より、初期条件 (\*\*) をみたす方程式 (\*) の解は y(x) = 54 である.

① 
$$\frac{1}{3}\cos 2x + \frac{1}{12}\sin 2x + \frac{1}{6}e^{2x}$$
 ①  $\frac{3}{8}\cos 2x + \frac{1}{8}\sin 2x + \frac{1}{8}e^{2x}$ 

① 
$$\frac{3}{8}\cos 2x + \frac{1}{8}\sin 2x + \frac{1}{8}e^{2x}$$

3 12 6 8 8 8

② 
$$\frac{3}{10}\cos 2x + \frac{1}{20}\sin 2x + \frac{1}{5}e^{2x}$$
 ③  $\frac{3}{8}e^{2x} + \frac{1}{8}e^{-2x}$ 

④  $\frac{1}{2}e^{2x} - \frac{1}{2}xe^{2x}$  ⑤  $\frac{1}{3}e^{-2x} + \frac{5}{6}xe^{-2x} + \frac{1}{6}e^{2x}$ 

# 第4分野 確率・統計

〔問1∼問5: 解答番号  $\lceil 55 \rceil \sim \lceil 72 \rceil$ 

(注意) 事象 A に対し、P(A) は A の起こる確率を表す。また、確率変数 X に対し、E(X)、 V(X), D(X) はそれぞれ X の期待値 (平均, 平均値), 分散, 標準偏差を表す.  $\emptyset$  は空事 象を表す。

**問1** (1) 独立な確率変数 X, Y の確率分布がそれぞれ次で与えられている.

X の値	2	3	4
確率	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{3}$	$\frac{1}{2}$

Y の値	0	1	2
確率	$\frac{1}{6}$	$\frac{1}{3}$	$\frac{1}{2}$

このとき、確率変数 X の期待値は  $E(X) = \begin{bmatrix} 55 \end{bmatrix}$  であり、分散は  $V(X) = \begin{bmatrix} 56 \end{bmatrix}$ である。また、 $E(X-Y) = \boxed{57}$ 、 $V(X-Y) = \boxed{58}$  である。

55	~	<b>58</b>	の解答群

- $(1) \quad 1 \qquad (2) \quad 2$
- ③ 3

- $\circ \frac{10}{9}$

(2) 確率変数 X がパラメータ 1 のポアソン分布に従うものとする. すなわち,

$$P(X = k) = e^{-1} \frac{1}{k!}, \quad k = 0, 1, 2, \dots$$

このとき,

$$P(X \le 1) = \boxed{\mathbf{59}}$$

である.

**問2** 2つの事象 A, B に対して、

$$P(A) = \frac{1}{2}, \quad P(B) = \frac{1}{3}$$

とする

- (1)  $A \cap B = \emptyset \ \mathcal{O} \ \mathcal{E} \ \mathcal{E}, \ A \ \mathcal{E} \ B \ \mathcal{E} \ \mathbf{60}$ .
- (2) 事象 B が起こったときの事象 A の起こる条件付き確率を P(A|B) で表す.  $P(A|B) = \frac{1}{2}$  のとき、A と B は **61**.

60 ・ 61 の解答群

- ① 独立である ① 従属である(独立ではない)
- ② 独立であるとも従属であるともいえない
- **問3** 数直線上にコマをおき、硬貨を投げて表が出たら正の方向に1だけコマを動かし、裏 が出たら動かさないものとする。最初にコマを原点におき、硬貨を3回投げた後のコ マの座標を X とするとき、X が 0 となる確率は P(X=0)= 62 であり、X が 2 となる確率は P(X=2) = 63 である。また、X の期待値は E(X) = 64X の標準偏差は D(X) = 65 である。ただし硬貨を投げたときに表,裏が出る確 率はともに $\frac{1}{2}$ とする.

62 ~ 65 の解答群

- ① 0 ①  $\frac{1}{2}$  ②  $\frac{3}{2}$  ③  $\frac{5}{2}$  ④  $\frac{1}{4}$  ⑤  $\frac{3}{4}$  ⑥  $\frac{5}{4}$  ⑦  $\frac{1}{8}$  ⑧  $\frac{3}{8}$  ⑨  $\frac{5}{8}$  ②  $\frac{\sqrt{3}}{2}$  ﴾  $\frac{\sqrt{3}}{4}$

**問4** 確率変数 X の確率密度関数 f(x) が

$$f(x) = \begin{cases} 0 & (x < 0) \\ \frac{1}{2}e^{-\frac{1}{2}x} & (x \ge 0) \end{cases}$$

で与えられているものとする。また、 X の分布関数を

$$F(x) = P(X \le x)$$

とする. このとき, X の期待値は E(X) = 66 で,

$$F(x) = \begin{cases} \boxed{\mathbf{67}} & (x < 0) \\ \boxed{\mathbf{68}} & (x \ge 0) \end{cases}$$

である.

#### 66 の解答群

#### 67 ・ 68 の解答群

- ① 0 ①  $e^{-2x}$  ②  $e^{-\frac{1}{2}x}$  ③  $\frac{1}{2}e^{-\frac{1}{2}x}$  ④  $2e^{-2x}$  ⑤  $1 e^{-2x}$  ⑥  $1 e^{-\frac{1}{2}x}$  ③  $1 2e^{-2x}$

**問 5** A 工場では、機械を用いて長さ 10 mm の部品を作っている。この機械で作られる部 品の長さは平均 10 mm. 分散 1 mm<sup>2</sup> の正規分布に従っていた。この機械が故障し修理 を行った後、故障前と同様に部品の長さの平均が 10 mm であるかどうかを調べるこ とにした.

修理後の機械で作られる部品の長さは、 平均 μ mm, 分散 1 mm<sup>2</sup> の正規分布に従うも のとする。この条件の下、 有意水準 5% として

帰無仮説  $H_0: μ = 10$ ,

対立仮説  $H_1: \mu \neq 10$ 

の両側検定を行う.

この機械で作られた部品の中から 16 個を取り出し、それらの長さを  $X_1, \ldots, X_{16}$  と すると,標本平均

$$\overline{X} = \frac{1}{16} \sum_{i=1}^{16} X_i$$

は平均  $\boxed{\mathbf{69}}$  , 分散  $\boxed{\mathbf{70}}$  の正規分布に従う. したがって帰無仮説  $H_0$  のもとで

$$Z = \frac{\overline{X} - 10}{\sqrt{\boxed{70}}}$$

は標準正規分布 N(0,1) に従う。実際に 16 個の部品の長さを測定したところ, $\overline{X}$  の 実現値  $\overline{x}$  は  $10.5 \,\mathrm{mm}$  であった。このとき, Z の実現値 z は  $\boxed{71}$  であり, 正規 分布表から

$$P\left(|Z| \ge \boxed{71}\right) = 0.0456 < 0.05$$

である. したがって帰無仮説は 72 といえる.

#### 69 の解答群

- (i) 0 (i)  $\mu$  (2)  $2\mu$  (3)  $4\mu$  (4)  $10\mu$

- (5)  $16\mu$  (6)  $\frac{\mu}{2}$  (7)  $\frac{\mu}{4}$  (8)  $\frac{\mu}{10}$  (9)  $\frac{\mu}{16}$

#### |70| の解答群 ‐

- ① 0 ① 1 2 4 ③ 10
- (4) 16

- $5 \frac{1}{2} \qquad 6 \frac{1}{4} \qquad 7 \frac{1}{10} \qquad 8 \frac{1}{16}$

#### 71 の解答群 -

#### - 72 の解答群 -

- ◎ 棄却されず、故障前と長さが同じではない
- ① 棄却されず、故障前と長さが同じである
- ② 棄却され、故障前と長さが同じではない
- ③ 棄却され、故障前と長さが同じである